

経営比較分析表（令和6年度決算）

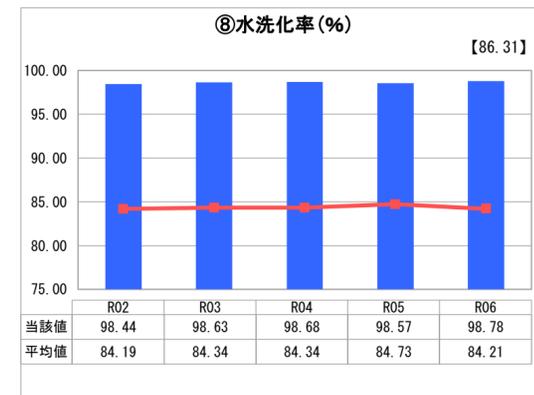
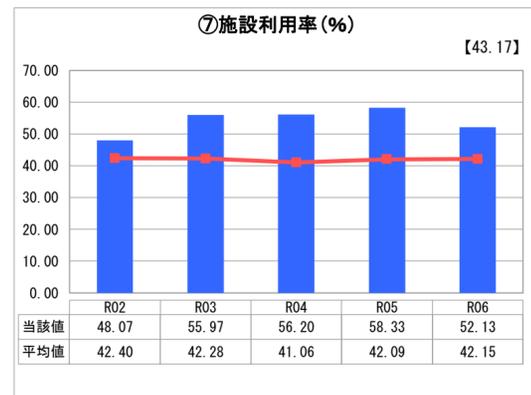
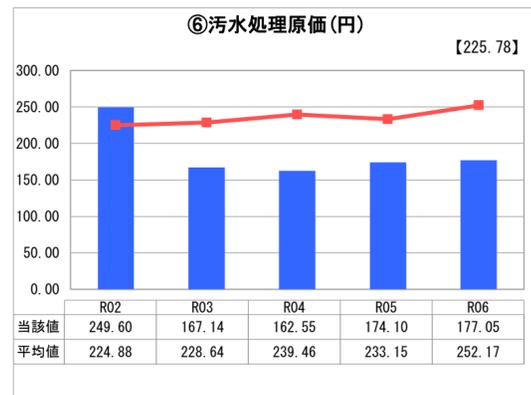
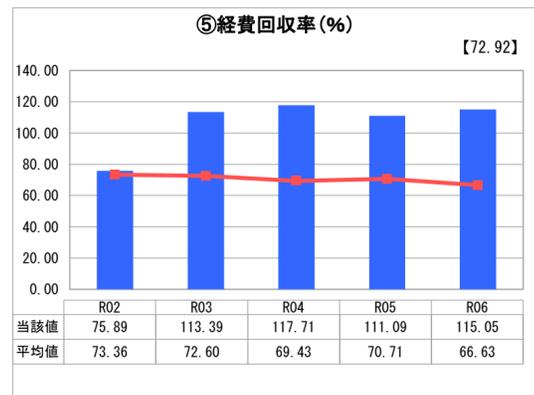
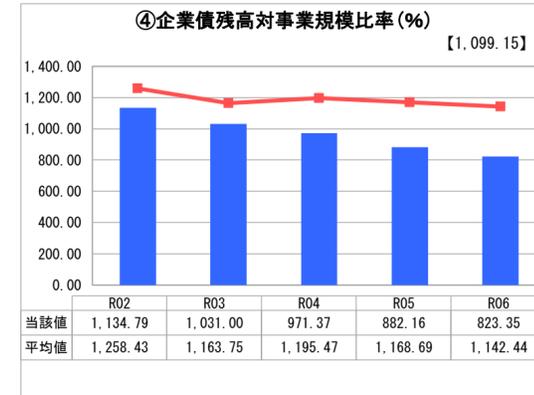
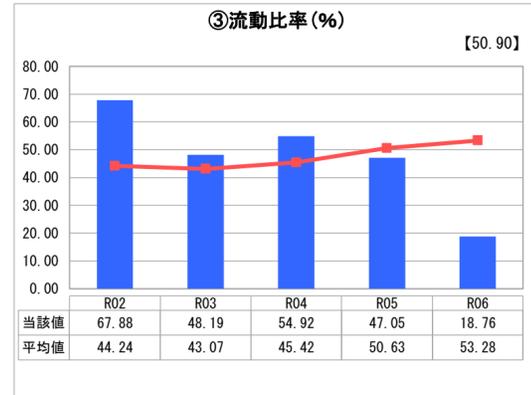
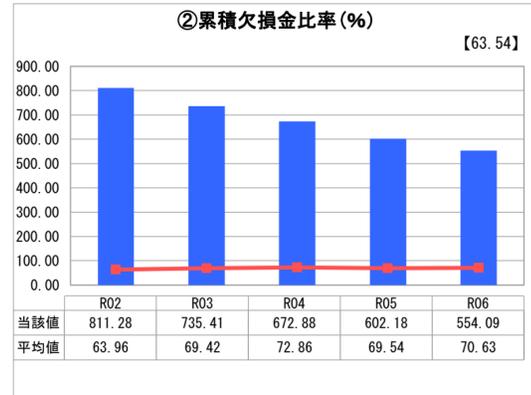
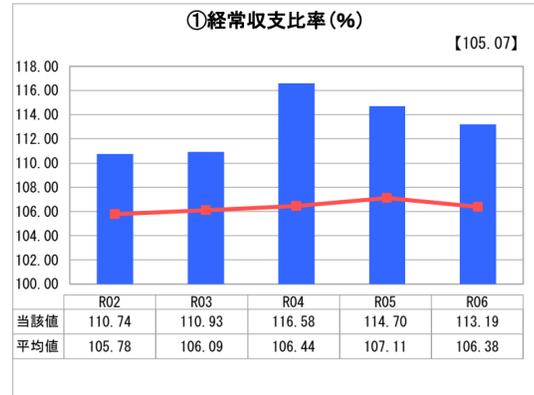
兵庫県 神河町

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法適用 | 下水道事業 | 特定環境保全公共下水道 | D2 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 53.79 | 60.24 | 81.09 | 4,400 |

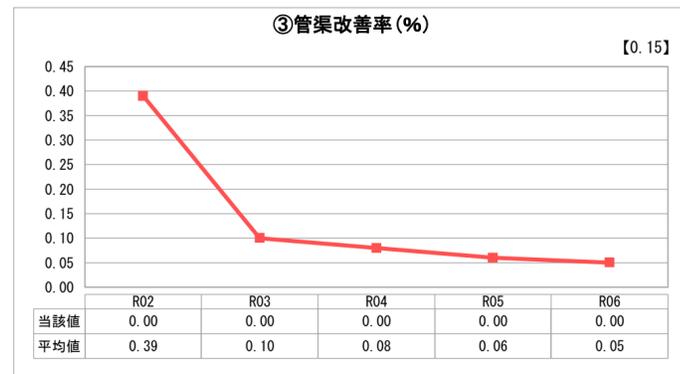
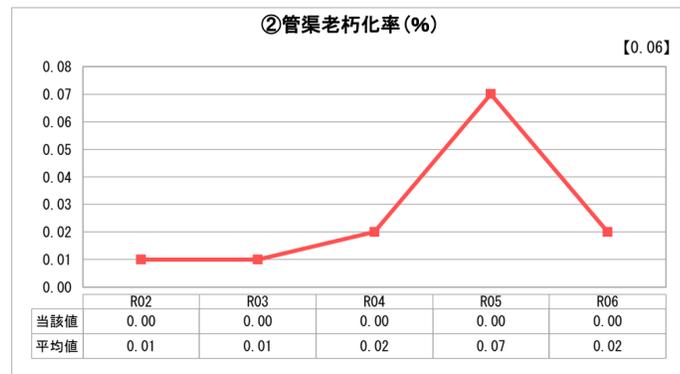
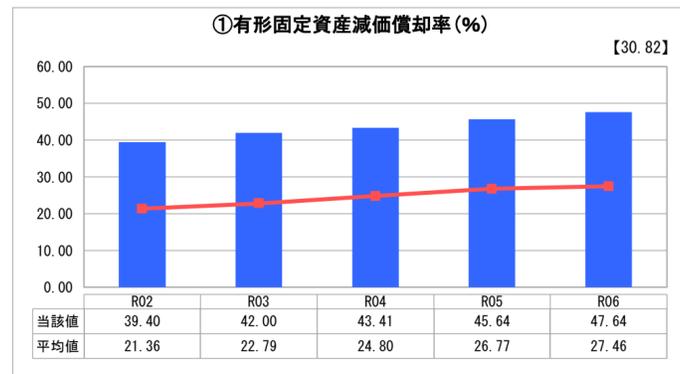
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 10,144 | 202.23 | 50.16 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 6,058 | 4.75 | 1,275.37 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和6年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支率は113.19%と100%を上回っており、単年度の収支は黒字を確保している。ただし、処理区域内の人口減少の影響は今後も続く見通しであり、将来的には一般会計繰入への依存度が高まる可能性がある。

当期純利益を確保していることから、累積欠損金比率は低下傾向にあるが、依然として高い水準にあり、健全な財務体質とは言えない状況である。引き続き、内部留保資金の運用に留意しつつ、欠損金の解消を進めていく必要がある。

流動比率は100%を大きく下回っているが、余裕資金の運用のため投資有価証券に振り替えているためであり、短期的支払い能力に問題はない。

企業債残高は徐々に減少しており、償還は概ね順調に進んでいる。類似団体と比較しても、過度な債務負担とはなっていない。

経費回収率は115.05%と、汚水処理に要する経費については、使用料収入により概ね賄われている状況である。

施設利用率は、有収水量の減少を主因として前年度から低下している。水洗化率が既に高水準に達していることから、今後の処理水量の大幅な増加は見込みにくい状況である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回っているが、管渠老朽化率は対象となる管渠がないため0%である。しかし、供用開始から約28年が経過しており、管渠や処理場建物は概ね良好な状態にあるものの、マンホールポンプ等の機械設備については、計画的な修繕・更新が必要な時期に差し掛かってきているため、留意が必要である。

全体総括

令和6年度決算では、経常収支比率、経費回収率が100%を上回り単年度の経営は安定しているが、人口減少等により使用料収入の増加は見込みにくく、一般会計繰入に依存した構造が続いている。水洗化率は99%と高水準である一方、下水道使用料は県下でも高い水準にあり、住民負担が大きい。

今後は、物価高騰による経費増や公営企業に携わる人材確保といった課題にも対応しつつ、施設更新への備え、収支計画の見直し、広域化・共同化・民間活用(W-PPP等)の検討を進め、持続可能な事業運営を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。